

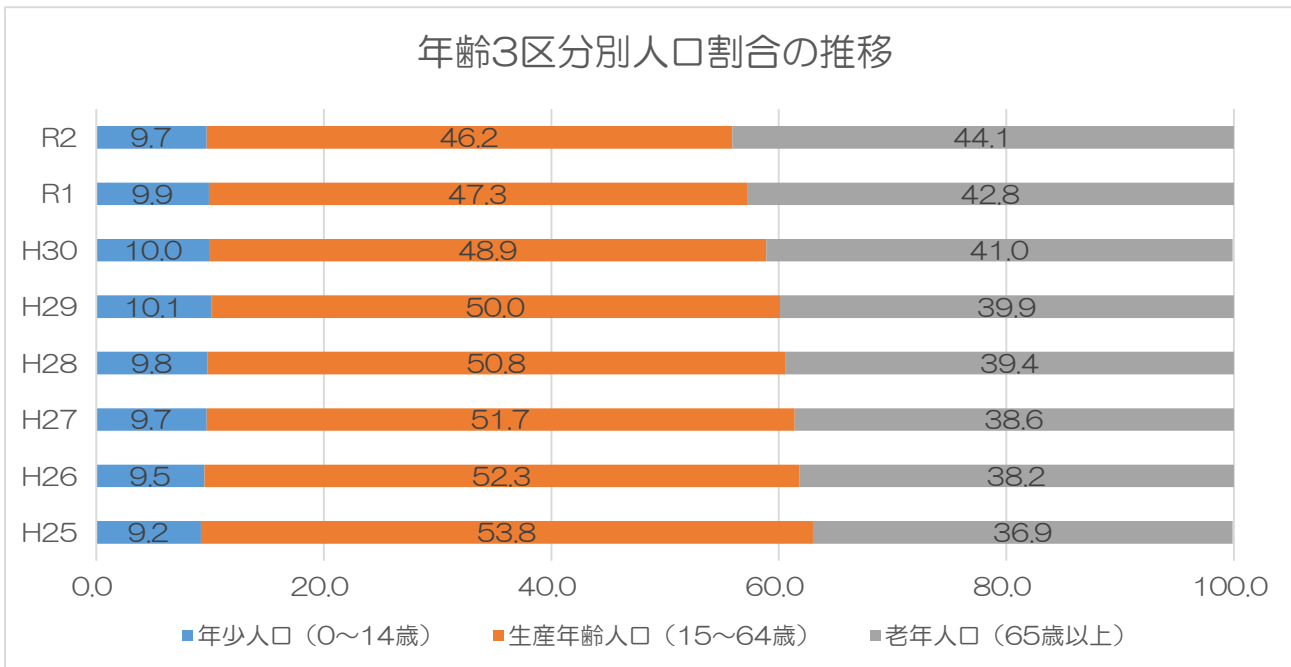
第2章

智頭町の「食」を取り巻く現状

1. 人口に関する状況

1) 人口の推移

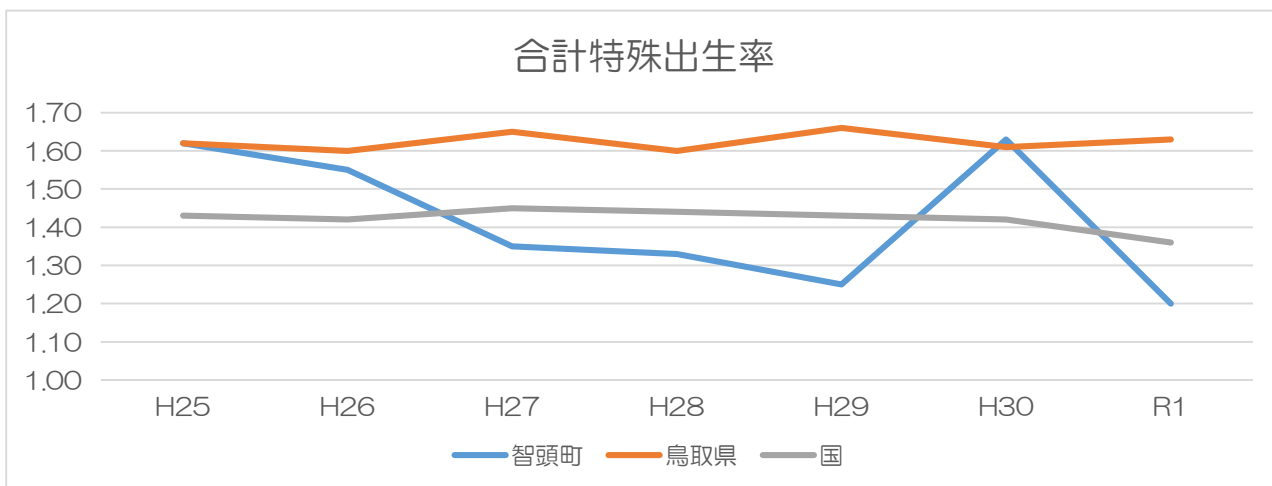
本町の人口は、昭和 30 年の 14,643 人をピークに年々減少しています。近年では 2～3%と緩やかな減少ですが、年少人口（0 歳～14 歳）が平成 16 年から平成 25 年までの 10 年間で約 350 人減少し、少子高齢化が確実に進んでいます。



【図1 年齢3区分による人口と世帯規模の推移】（県人口動態調査）

2) 合計特殊出生率

平成 22 年以降は県平均を下回る傾向が続いています。共働き世帯が増えるなか、出産・育児と仕事が両立しやすい環境の整備が求められます。

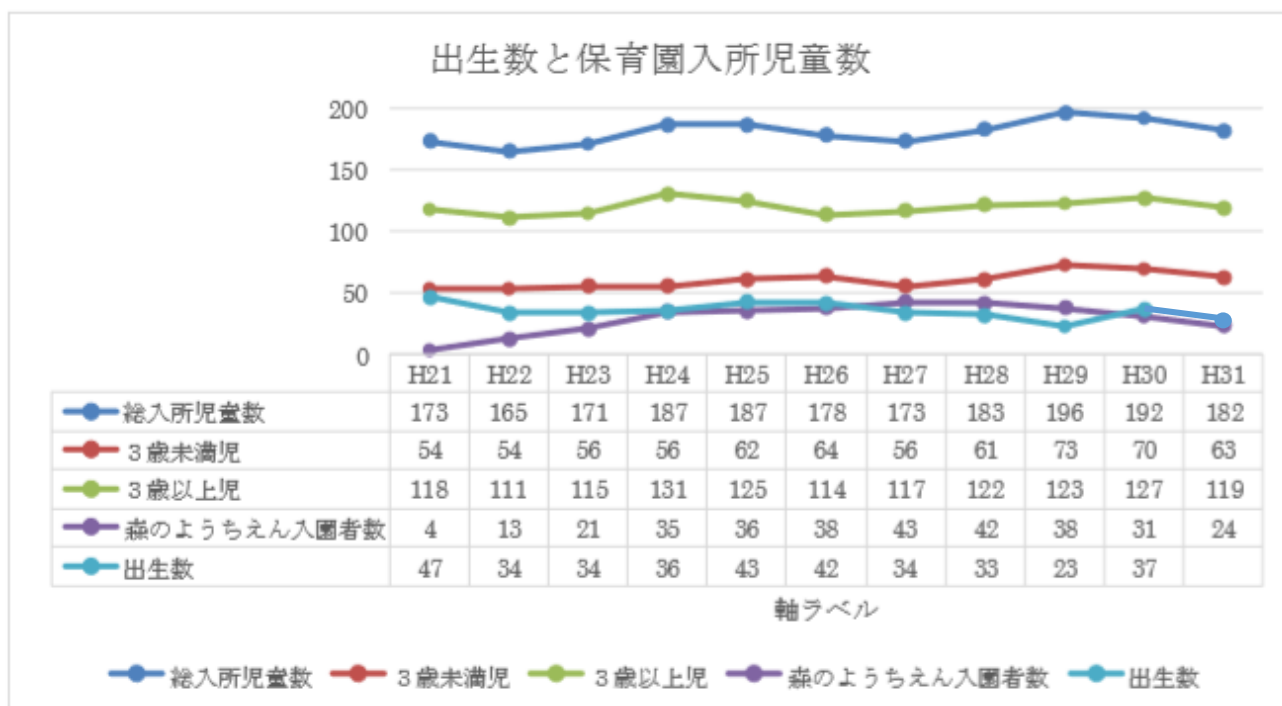


【図2 合計特殊出生率の推移】（県人口動態調査）

2. 保育・教育に関する状況

1) 保育園の入所児童数

少子化に伴い、平成19年度に保育園を統合し、あたご保育園（3歳未満児）と、諏訪保育園（3歳以上）2園化とし、平成29年4月には2園を統合し、ちづ保育園に一園化しました。出生数は30～40人前後を保っていますが、入所児童数が増加傾向にあり、母親の就業との関係がうかがえます。



【図3 出生数と保育園入所児童数】（智頭町子ども・子育て支援事業計画より）

2) 小学校・中学校の児童・生徒数

年度	小学校児童数の推移(人)							中学校生徒数の推移(人)			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計
26年度	51	48	43	39	44	55	280	48	55	57	160
27年度	44	52	46	44	40	47	273	53	48	55	156
28年度	52	44	51	47	45	40	279	47	53	48	148
29年度	43	54	44	53	45	45	284	39	47	54	140
30年度	51	42	53	43	53	46	288	45	39	47	131
元年度	51	50	40	49	39	48	277	47	42	39	128

【表1 小学校児童数・中学校生徒数の推移】（智頭町子ども・子育て支援事業計画より）

3. 生産に関する状況

1) 農家・農地等の状況（令和3年3月31日現在）

本町の農業は、水稻、畜産、園芸作物が主要作物であり、今後もこれらが中心となると思われるが、高齢化の進行により遊休農地の増加が懸念されていることから、その発生防止・解消に努めていく一方、水稻経営等の担い手への農地利用の集積・集約化に取り組んでいく必要があります。

	農家数(戸)
総農家数	657
自給的農家数	369
販売農家数	285
主業農家数	16
準主業農家数	25
副業的農家数	244

※ 農林業センサスに基づいて記入。

	農業者数(人)
農業就業者数	302
女性	119
40代以下	16

※ 農林業センサスに基づいて記入。

	経営数(経営)
認定農業者	7
基本構想水準到達者	4
認定新規就農者	0
農業参入法人	0
集落営農経営	1
特定農業団体	0
集落営農組織	1

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	畑			計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	497	57	57	0	0	554
経営耕地面積	193.4	29	25.1	1.9	2	222.4
遊休農地面積	26.7	0.2	0.2	0	0	26.9
農地台帳面積	546.5	111.2	111.2	0	0	657.7

【表2 農家・農地等の概要】（令和3年度農業委員会活動計画より）

2) 高収益作物や転換作物等の状況（令和3年度）

本町は鳥取県の南東部に位置する山間地域で、農用地が少なく農家一戸当たりの耕作面積は34aと少ないです。水田面積は460haでコシヒカリ、ひとめぼれ等の稲作を中心に、転作作物としてJA鳥取いなばの重点作物の白ネギ、アスパラガス、ブロッコリー、ホウレンソウ、生姜、智頭町特産作物の自然薯、りんどう、どうだんつつじ、テッポウユリ、キクイモ、ルバーブ、その他の多品目野菜が栽培されています。

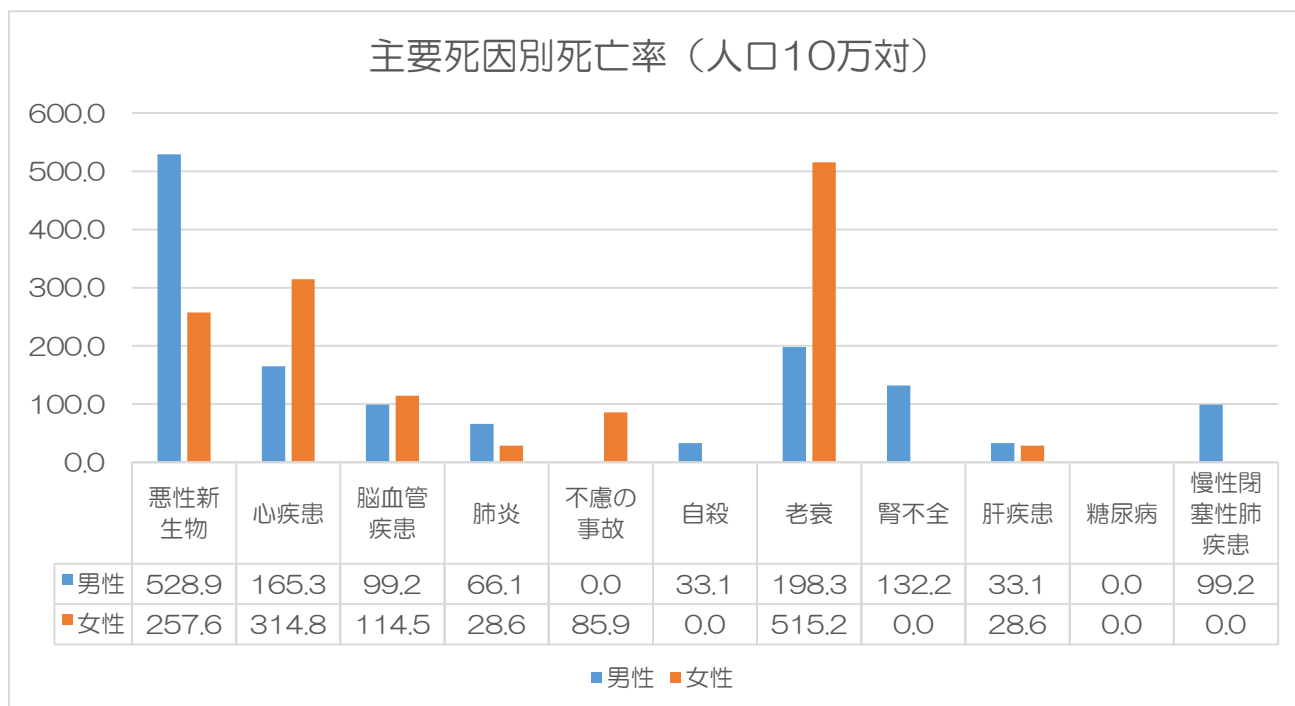
作物		前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米		236.5	235.4	235.4
大豆		2.1	2.1	2.2
そば		2.2	2.0	2.2
作高物収益	野菜	45.2	46.1	47.0
	花き、花木	7.7	7.8	7.9
	果樹	2.2	2.2	2.2
その他	きのこ、山菜他	3.5	3.5	3.5

【表3 作物ごとの作付予定面積】（令和3年度智頭町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョンより）

4. 健康に関する状況

1) 主要死因別死亡率（人口10万人当たりの人数に換算したもの）

男女どちらも、老衰を除いて「悪性新生物（がん）」「心疾患」「脳血管疾患」の3大死因が高い死亡率を示しており、生活習慣病予防が重要となっています。



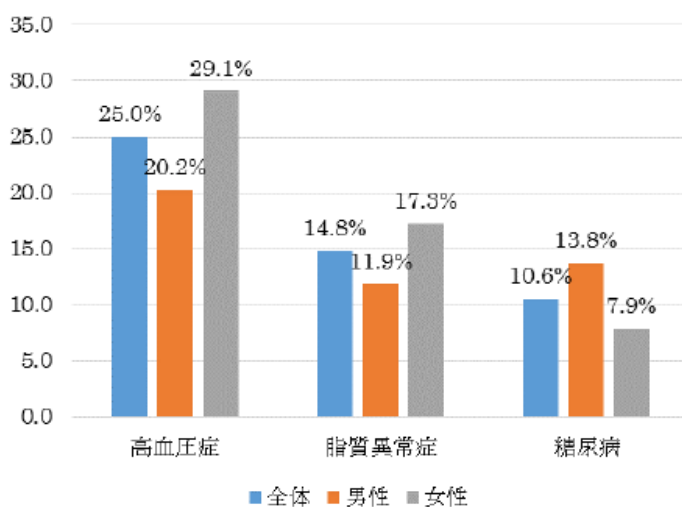
【図4 主要死因別死亡率】（令和元年度鳥取県人口動態統計より）

2) 生活習慣病の有所見者割合

高血圧症、脂質異常症、糖尿病の中では高血圧症と診断されている人が一番多く、25.0%でした。高血圧症対策として、減塩の推進と野菜摂取の増加を図る取り組みが必要です。

		全体	男性	女性
高血圧症	人数(人)	59	22	37
	割合(%)	25.0	20.2	29.1
脂質異常症	人数(人)	35	13	22
	割合(%)	14.8	11.9	17.3
糖尿病	人数(人)	25	15	10
	割合(%)	10.6	13.8	7.9

【表4 三疾病の有所見者割合】



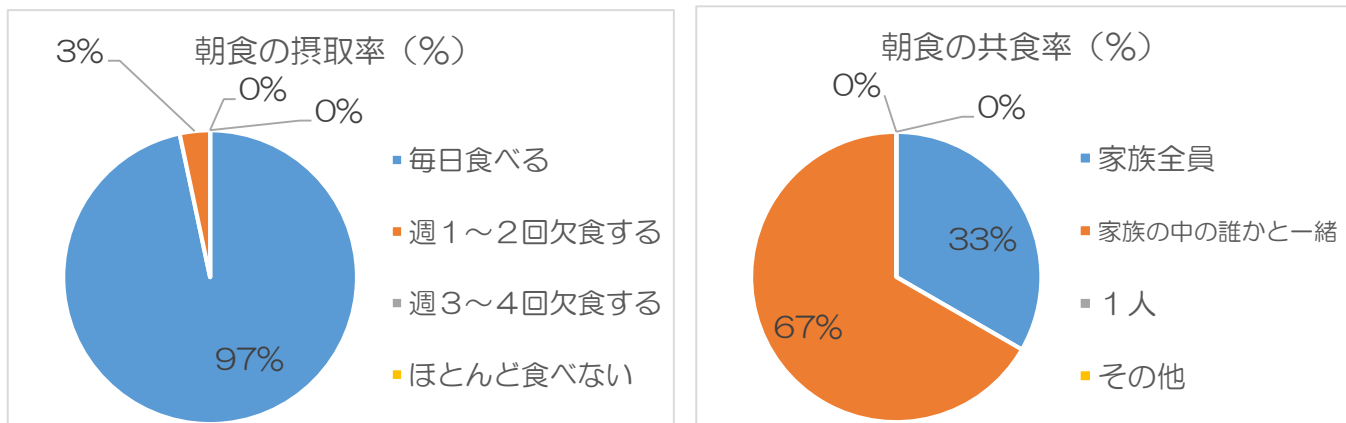
【図5 三疾病の有所見者割合】

健康ちづ21 平成29年度改訂版より

3) 朝食の摂取率（令和3年度 健康づくりアンケート）

◆保育園児（5歳児）

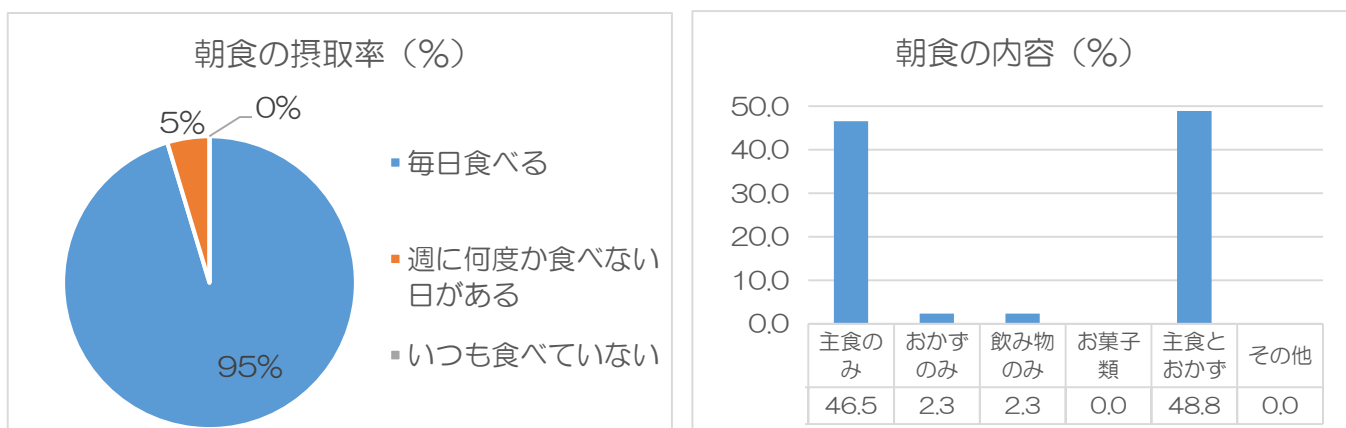
ほとんどの家庭で食べられていましたが、週1～2回欠食する家庭がありました。また、朝食の共食率については、1人での“孤食”は0%という結果でした。



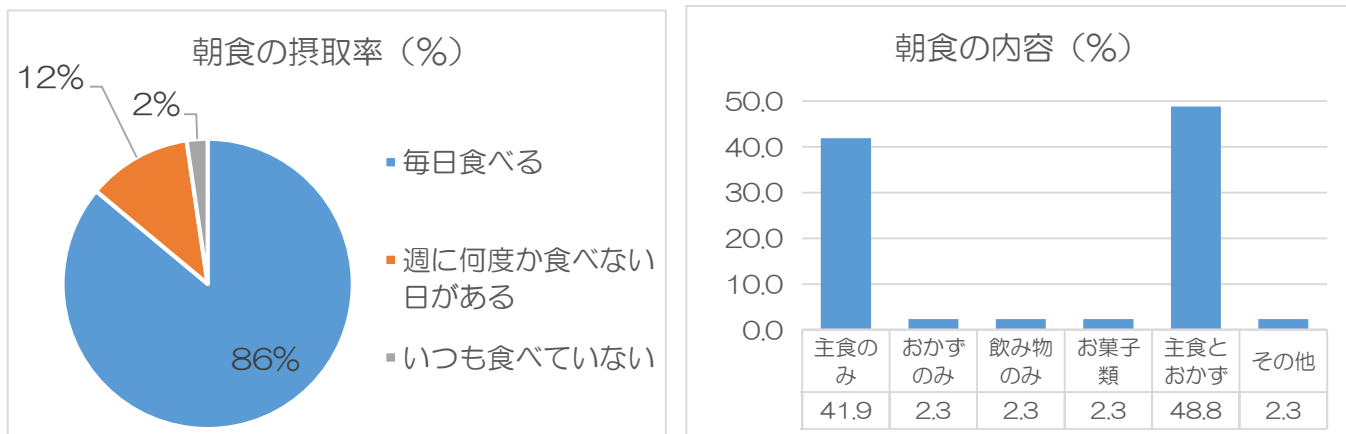
【図6 保育園児の朝食摂取率と共食率】（健康づくりアンケートより）

◆児童生徒（小学5年生）

8～9割の家庭で食べられていましたが、中学生について「いつも食べていない者」が2%でした。朝食の内容については、「主食のみ」「主食とおかず」が大半を占めていました。



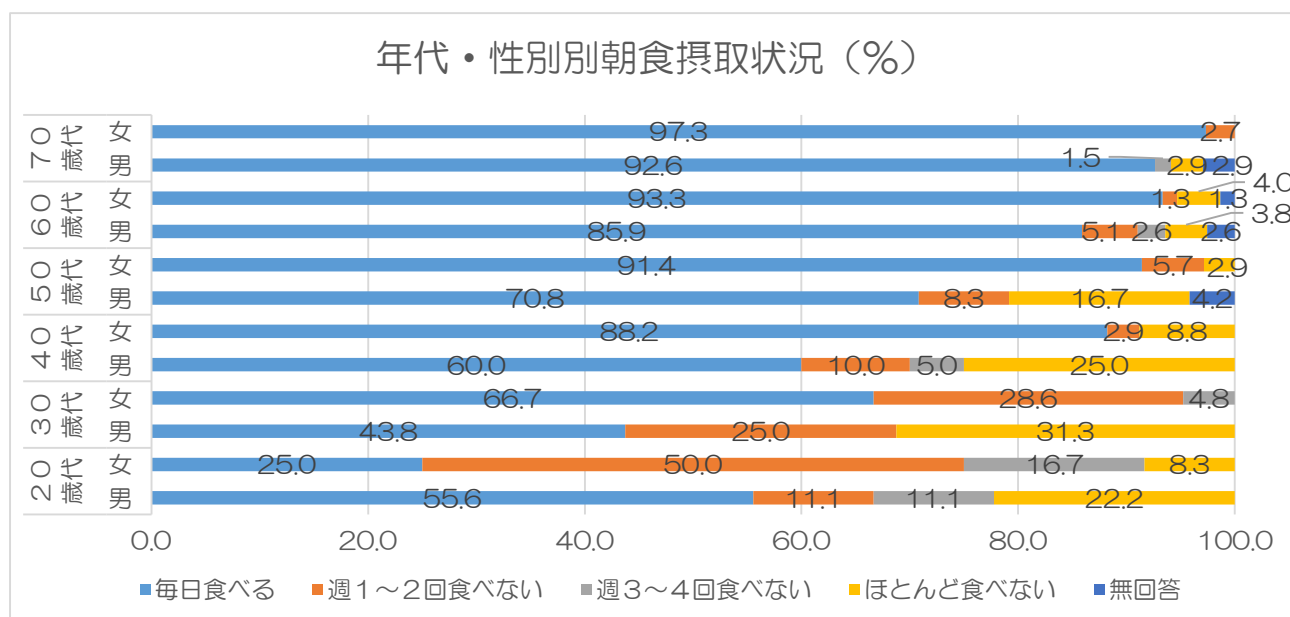
◆児童生徒（中学2年生）



【図7 児童生徒の朝食摂取率と共食率】（健康づくりアンケートより）

◆成人（20歳以上）

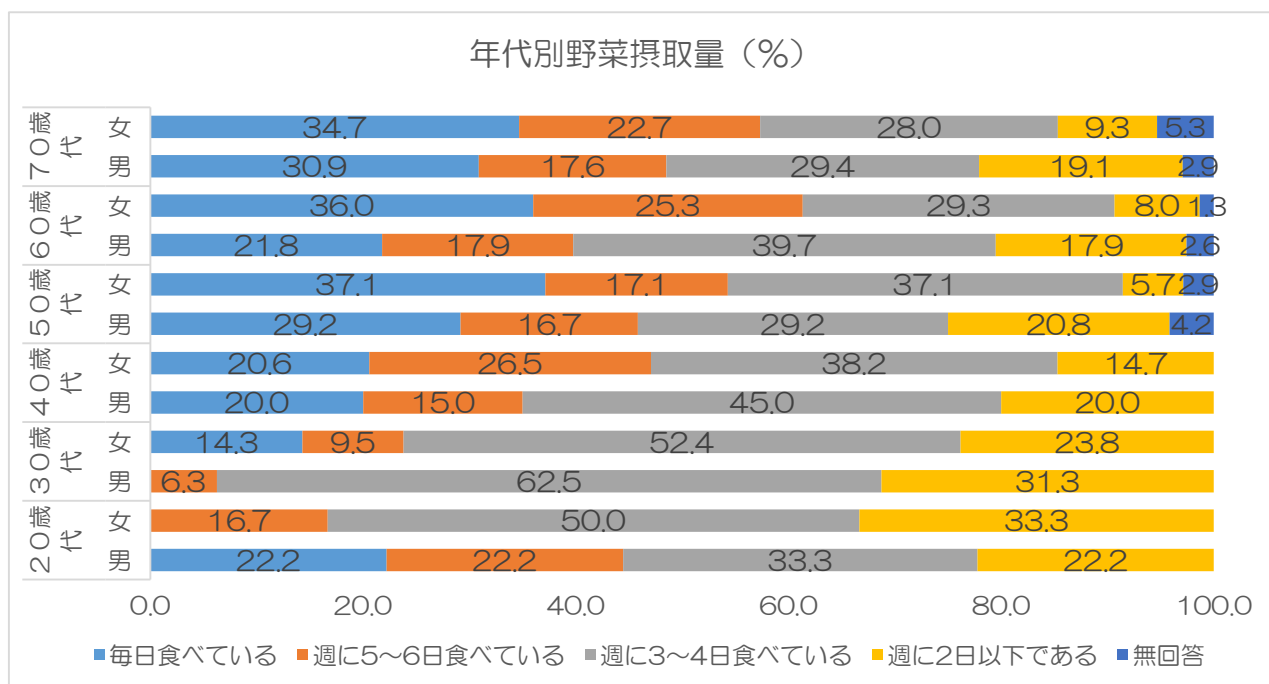
成人の朝食摂取率については、20～30歳代の若い世代で低く、特に20～59歳の男性については朝食の欠食率が23.2%と高くなっています。



【図8 年代別朝食の摂取状況】（健康づくりアンケートより）

4) 野菜の摂取状況（令和3年度 健康づくりアンケート）

野菜を両手一杯分食べる者の割合について、20～30歳代の若い世代で摂取率が低く、20歳代女性及び30歳代男性については毎日食べる者は0%であった。野菜摂取は生活習慣病予防に欠かすことのできないものであるため、必要性や手軽に摂取できる方法等を周知していく必要があります。



【図9 年代別野菜の摂取量】（健康づくりアンケートより）